

CSR REPORT 2021

1. 社長メッセージ

CSRサイトレポートを発行するにあたり一言ご挨拶申し上げます。

昭和電工HD山形株式会社は、昭和電工グループのハードディスク事業の重要生産拠点として、開業以来「安全・安定操業、環境トラブルゼロ」を事業継続の大前提と掲げております。

ハードディスクは、パソコンやデータセンター向けハードディスクドライブ(HDD)を始めとして、カーナビゲーション、HDDレコーダー、ゲーム機、VR、監視カメラ等に広く使用されている大容量記録媒体であり、昭和電工グループのハードディスク事業は、世界の20%を超えるシェアを占めています。

近年では、IoTの伸張に伴うビッグデータの活用、クラウド・モバイルの普及によるデータセンターの大容量化が進み、ここで利用されるニアラインHDD(NL-HDD)の需要が年々拡大しています。

当社は、主力製品であるNL-HDD向け大容量ハードディスクの技術革新をさらに推し進め、ドライブあたり記録容量を増大し、データの価値がますます上昇する高度情報化社会のニーズにスピードをもってお応えします。

新型コロナウイルス感染症による社会生活への不安が広がる中、今後もCSR活動を実践し、安全・安心・快適で環境負荷の少ない持続可能な社会の実現に向け、事業を力強く推進いたします。



代表取締役社長 石川 二郎

2. 事業所長メッセージ

昭和電工HD山形は、昭和電工グループのHD事業の生産拠点のひとつとして2009年7月に発足し、その歴史を刻み続けています。開業から現在に至るまで、「安全・安定操業、環境トラブルゼロ」を継続できておりますのは、ひとえにお客様、サプライヤー様、協力企業様、社員並びに関係各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

ハードディスクは、IoTの伸張を支えるキーデバイスの一つであるハードディスクドライブに必要なコンポーネントです。高記録密度化の加速、更なる信頼性の向上、コストダウン強化を図り、「Best-In-Class(BIC)」製品の安定供給を通して、高度情報化社会の進展に貢献していく所存です。

また、昭和電工グループHD事業において、当社の重要な役割である基板マザー工場機能と、ニアラインメディアの1st量産および他拠点展開にスピード感を持ってあたるとともに、今後とも、『事業継続のベースは安全・安定操業、環境トラブルゼロにある』ということ念頭に、安全で健康的な職場を築いてまいります。

本レポートをご覧いただき、わたくしたちの取り組みへの忌憚のないご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。



取締役事業所長 青木 隆明

3. 会社概要

ショウワデンコウエイチディヤマガタ

◆ 昭和電工HD山形株式会社 ◆

<昭和電工株式会社の100%子会社>



- 操業開始 2009年(平成21年)7月1日
- 資本金 450百万円(2021年3月31日現在)
- 従業員 社員:360人、協力会社:372人(2020年12月31日現在)
- 所在地 本社:山形県東根市大字東根甲5400番地2
基板工場:栃木県小山市犬塚1丁目480番地
- 事業内容 磁気ディスク装置用アルミニウム基板及び記録メディアの開発、製造、販売



ハードディスクメディア



【 昭和電工株式会社 】

- 設立 1939年(昭和14年)6月
- 資本金 140,564百万円(2021年3月31日現在)
- 従業員 グループ連結:33,684人、単独:3,515人(出向者を除く)
(2020年12月31日現在)
- 本社所在地 東京都港区芝大門1丁目13番9号
- 売上高 グループ連結:9,737億円(2020年12月期)
- 事業内容 石油化学、化学品、エレクトロニクス、無機、アルミニウム、その他

• CSRLレポートの報告対象範囲

昭和電工HD山形(株) 本社・基板工場を対象としています。報告対象期間は、2019年4月~2021年3月の情報です。環境データの一部は、2020年1月~12月のものです。

2021年 SHDY事業所方針

事業所長 青木 隆明

変革 比類ない高き次元へ

1. 基板増産体制の構築
2. No.1品質・No.1生産性の堅持
3. 新規プログラムの垂直立上げ
4. 事業所基盤の強化
5. 安全安定操業とコンプライアンスの徹底

以上

5. マネジメントシステム

■品質マネジメントシステムの維持強化 (業務方針、方向の明確化と進捗管理)

1.品質方針

- ・方針展開はトップダウンにより周知徹底を図っています。
昭和電工(株)デバイスソリューション事業部⇒事業所方針
⇒各部分針⇒全従業員

2.業務遂行の重要ポイント

- ・各部における重要な業務プロセスを明確にします。
- ・更に、その業務と各部とのかかわりも明確にしています。
- ・実績検討会や生産会議の場で、トップへ報告をおこないます。

3.登録証

- ・2010年1月に品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証を取得しました。また2016年1月には小山基板工場を統合し、基板とメディアの開発、製造、販売へ認証を拡大しております。その後も、顧客満足度や成果実績も考慮される3年に1度の更新審査と年次のサーベイランス審査も共に高評価を得て、継続認証されております。

認証番号 : QC09J0076
登録日 : 2010年1月6日
認証機関 : 株式会社日本環境認証機構(JACO)



■顧客満足度の向上を目指した活動

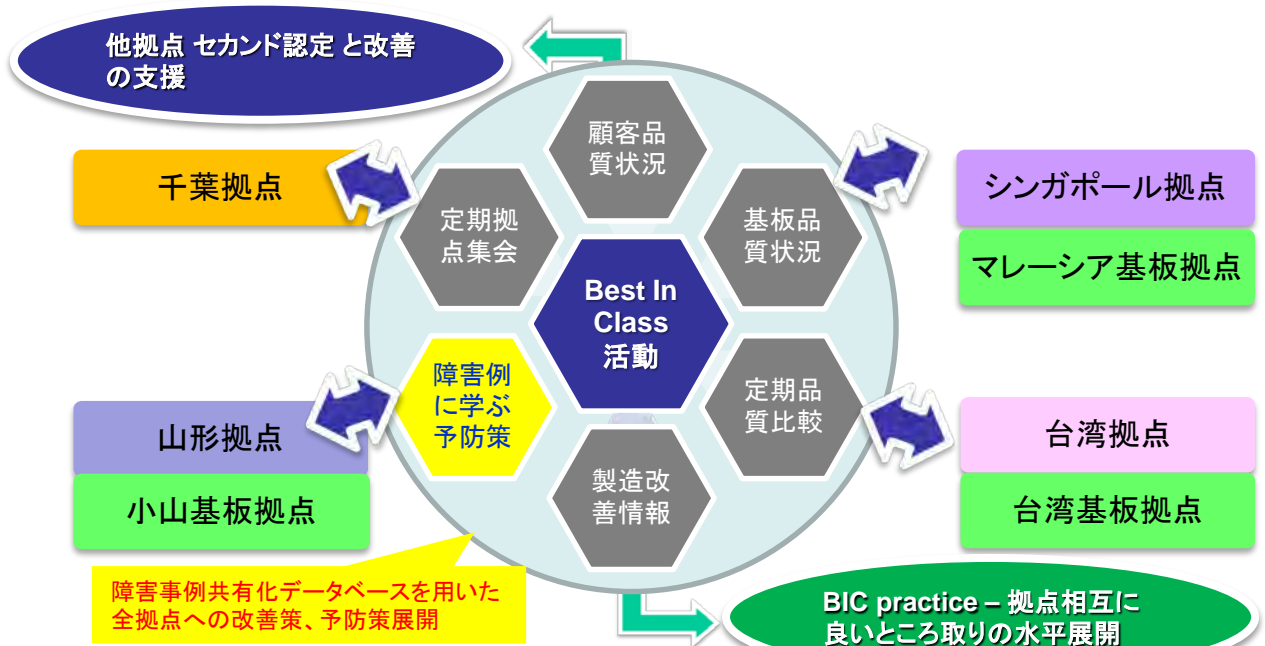
1.お客様とよりよい関係の構築

- ・各場面(開発/量産/出荷先)で顧客との定期打合せにより、品質状況の共有と要求事項への対応をしています。

打合せ名	内容	参加組織
開発コラボ会議	<ul style="list-style-type: none"> ・新機種設計仕様と目標達成度の確認 ・市場品質状況、市場要求事項の確認 	顧客設計部門 当社開発部門
量産コラボ会議	<ul style="list-style-type: none"> ・量産状況確認と品質課題への対応 ・継続的改善活動 	顧客SQE部門(国内/海外) 当社品証部門(各製造拠点) 当社プロセス改善部門

2.お客様の満足とさらなる安心をめざす安定品質の提供

- ・ニアライン機種及び基板のマザー工場として、初回認定を受けた後、他拠点のセカンド認定と量産時の改善の支援を行っています。
- ・全製造拠点間での媒体に関する顧客品質状況や、主な基板供給拠点間での製造品質・改善情報の共有により、品質格差の低減と顧客品質問題に対する先取り対策を水平展開しています。
この活動は昭和電工グループHD事業における全体活動として行われており、Best In Class活動と呼びます。



労働安全衛生・環境方針

高度情報化社会を支えるキーデバイスである磁気ディスク装置に不可欠なコンポーネントとしての高容量・高性能・高信頼性の基板を含む記録メディアの開発・製造、販売活動を通じて、労働安全衛生及び地球環境に配慮した企業活動を実践することにより、企業としての社会的責任を果たします。

- ・労働安全衛生マネジメントシステム及び環境マネジメントシステムの継続的な改善を行うと共に、労働災害防止および環境保護に努めます。
- ・労働安全衛生と環境に関連する法令、規制と当社が同意したその他の要求事項を順守すると共に、自主的な基準を設定し順守します。
- ・安全で快適な職場環境のもと、高品質で環境と社会に貢献する製品及びサービスを提供することを目的に以下の重点テーマに基づく実施計画を設定して取り組みます。
また、実施計画を定期的に見直し、労働安全衛生と環境のパフォーマンスを継続的に改善します。
 - (1) リスクアセスメントの活用・マネジメントシステムの深化により災害ゼロを目指す。
 - (2) 疾病予防と健康管理を推進し、こころと身体の健康づくりを目指す。
 - (3) 事業活動を通じてサステイナブルな社会の実現に貢献する。
- ・事業継続のベースは「安全・安定操業、環境トラブルゼロ」にあることを認識し、教育訓練や啓発活動を通じて、全従業員の労働安全衛生の意識を向上させ、一人ひとりが関連法令を順守し、地球環境に配慮した行動を実践できるよう取り組みます。
- ・地域社会、公的機関及び利害関係者との良好な関係を図るため、積極的な情報開示と対話に取り組みます。

この方針は当社で働く又は当社のために働くすべての人に周知すると共に、社外からの要求に応じて一般の人にも開示します。

2021年 1月 6日
昭和電工HD山形株式会社

事業所長 青木隆明

労働安全衛生・環境マネジメントシステム

昭和電工HD山形は2009年11月に「環境マネジメントシステム」の認証を取得しました。「労働安全衛生マネジメントシステム」は2021年1月にOHSAS18001よりISO45001の認証へ移行が完了しました。二つのマネジメントシステムを統合した運営を行い、効率的な活動を展開しています。

＜環境マネジメントシステム＞

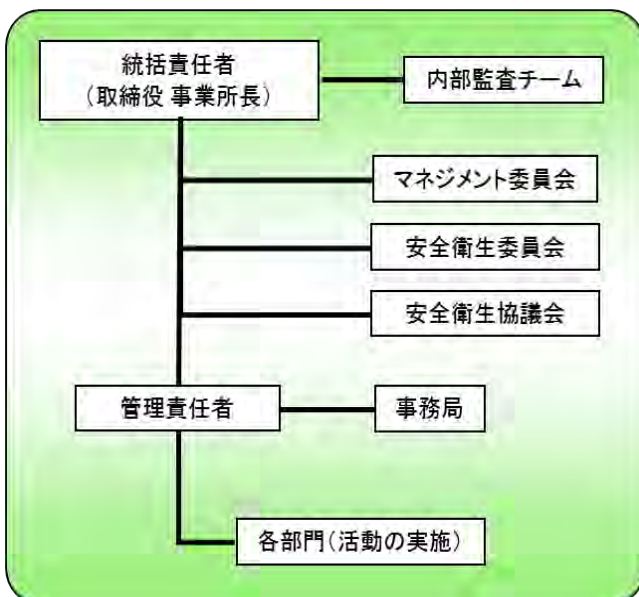
- ・認証規格: ISO14001:2015
(JIS Q 14001:2015)
- ・登録番号: 12ER-862
- ・初回登録日: 2009年11月25日
- ・認証機関: 高圧ガス保安協会 ISO審査センター
(KHK-ISO Center)

＜労働安全衛生マネジメントシステム＞

- ・認証規格: ISO45001:2018
(JIS Q 45001:2018)
- ・登録番号: 21HR-023
- ・初回登録日: 2021年1月29日
- ・認証機関: 高圧ガス保安協会 ISO審査センター
(KHK-ISO Center)



労働安全衛生・環境マネジメント組織



環境活動に関しては、各部門において環境負荷低減を推進しています。

労働安全衛生活動に関しては、職場の各部門内の小グループにて危険リスクを抽出し、危険源の排除活動を行い、安全で快適な職場環境を実現しています。

これらの活動はマネジメント委員会にて審議され、活動のスパイラルアップを行う体制としています。

定期的実施される内部監査や外部審査により、労働安全衛生・環境活動の運用状況や継続的改善の状況についてチェックしています。

6. 環境負荷の概要

当社は製品を提供するために、さまざまな原材料を調達し、燃料・電力などのエネルギーや水資源を使用しています。また、生産活動に伴って発生する環境負荷の低減活動も積極的に行っています。



[算出対象期間: 2020年4月1日~2021年3月31日]

※ゼロエミッション達成中: 定義は埋立処分量が廃棄物発生量の0.5%以下であること。

7. 地球温暖化対策

エネルギー起源CO₂の排出量削減

以下の活動を実施し、エネルギー起源のCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

①製造設備の効率化

記録メディア製造工程の歩留まり改善やライン稼働率の向上を図ることにより、エネルギー当たりの生産量増加に継続的に取り組んでいます。

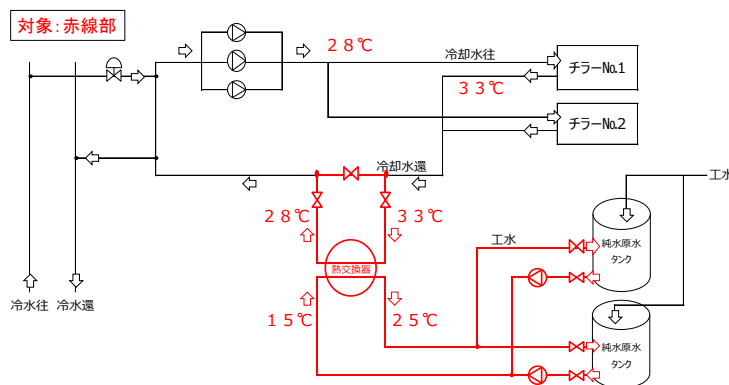
	目標	実績
使用量(原油換算)	9,766 kl	9,715 kl
CO ₂ 排出量	22,692 t-CO ₂	22,717 t-CO ₂

(注: 本社のみの値)

②超純水用原水の加温システム構築

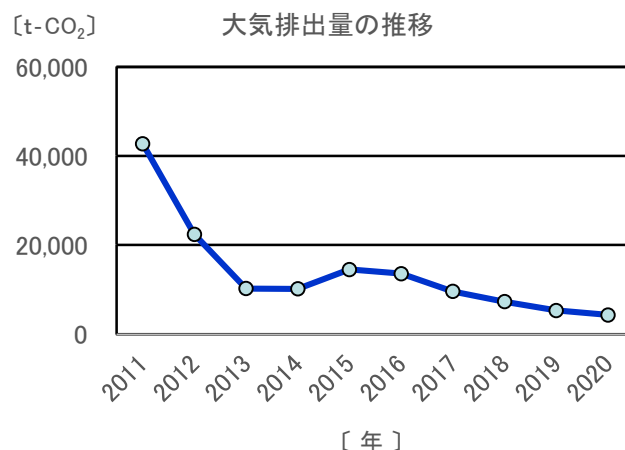
本社工場2番館の超純水用原水を、生産用冷却水の排熱で加温するシステムを構築しました。

通常は15℃の原水(工業用水)を25℃まで加温することができるようになったため、蒸気による加温負荷が減少し、年間120klのA重油が削減できます。



CO₂以外の温室効果ガス削減

記録メディア製造工程で使用する溶剤(HFC: 代替フロン)の1つで温室効果ガスの蒸散量を低減するために、開放型装置の処理槽の小型化及び密閉化等に取り組んでいます。それにより溶剤の蒸散量を抑制し、地球温暖化防止に貢献しました。



8. 廃棄物対策

廃棄物削減

記録メディア製造工程の排水を処理することで汚泥が発生します。汚泥の削減のため、処理方法の検討を行い廃棄物発生量の抑制に取り組んでいます。

また、廃プラスチック類の分別を継続的に行うなど、廃棄物の有価物化に積極的に取り組み、廃棄物発生量の削減に努めています。

廃棄物発生量が目標未達であったのは、記録メディア製造工程からの排出量が増加したためです。

	目標 (2019年実績)	実績 (2020年)
総発生量	446 t	692 t
廃棄物発生量	328 t	545 t
有価物量	115 t	144 t
一般廃棄物(事業系)	3 t	3 t

(注: 本社のみの値)

[7. 地球温暖化対策、8.廃棄物対策における活動期間は、2020年1月1日 ~ 2020年12月31日]

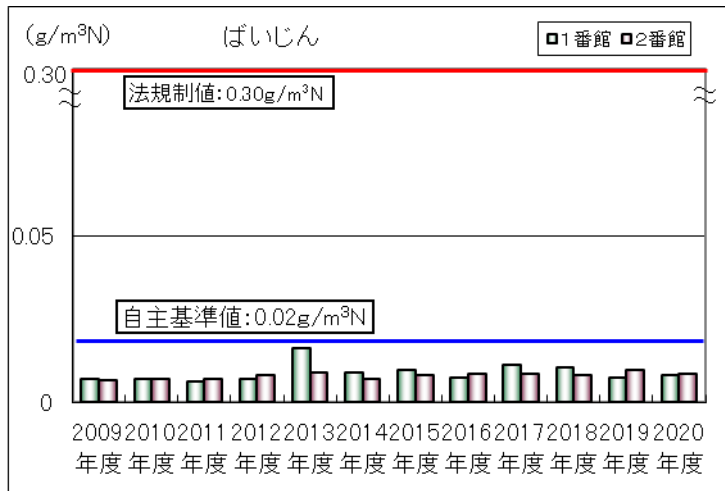
9. 環境に関わる法規制の順守状況

大気関係

当社は大気汚染防止法に関連する設備として、空調用のボイラー、吸収式冷凍機のばい煙発生施設を設置しています。

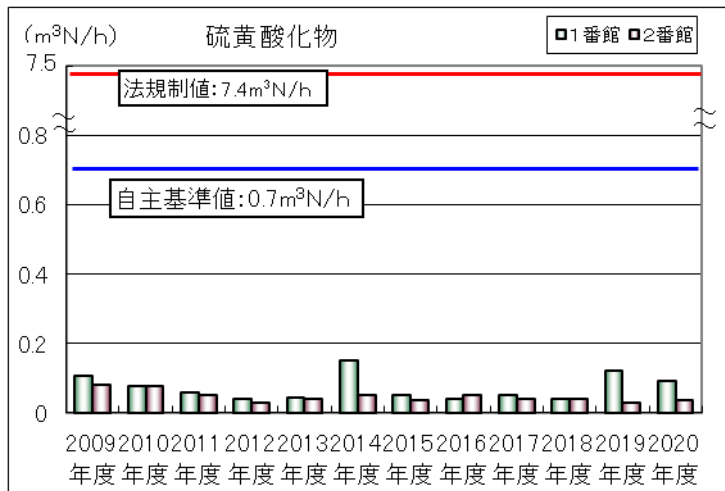
大気汚染防止法に基づく定期測定の結果、大気への環境負荷物質の排出量は法規制値を大幅に下回る低い水準で推移しています。

各機器では、最適な燃焼効率となるように適宜調整を行っています。また、冬期間は外気を活用したフリークーリングシステムを積極的に利用することで吸収式冷凍機運転停止による、ばい煙発生抑制に努めています。



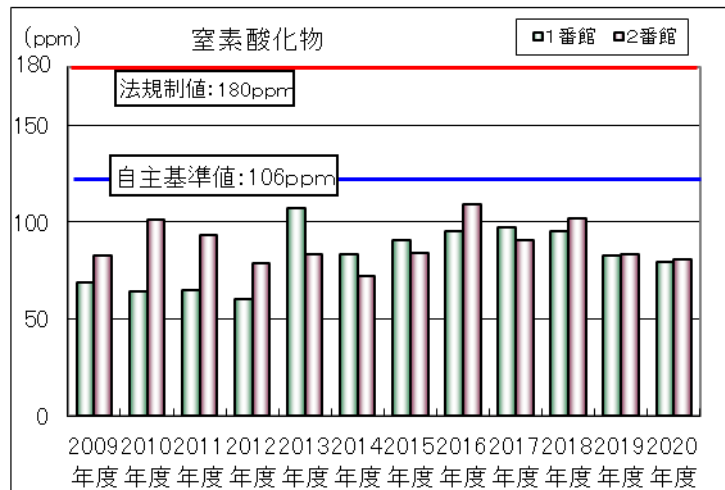
・ばいじん：ばい煙の一種で、すすや燃えかすの固体粒子状物質。

煙道のばい煙濃度計により、常時ばい煙の状態を監視しています。



・硫黄酸化物：石油や石炭などの化石燃料を燃焼するときに排出される物質。ソックス(SOx)ともいう。

硫黄酸化物の濃度を抑制するために、燃料中の硫黄成分が少ないLSA重油を使用しています。
※LSA重油:Low Sulfur A重油



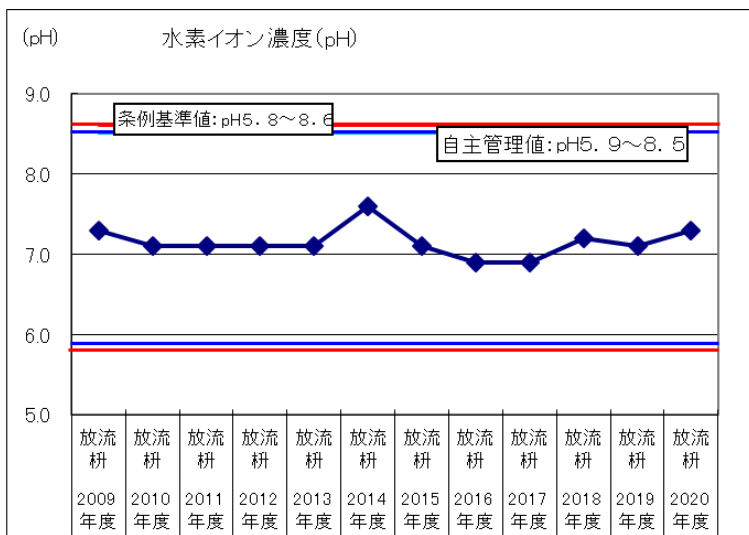
・窒素酸化物：光化学オキシダントの原因物質で硫黄酸化物と同様に酸性雨の原因ともなっている物質。
ノックス(NOx)ともいう。

燃焼温度を管理し窒素酸化物の濃度を適正に管理しています。

水質関係

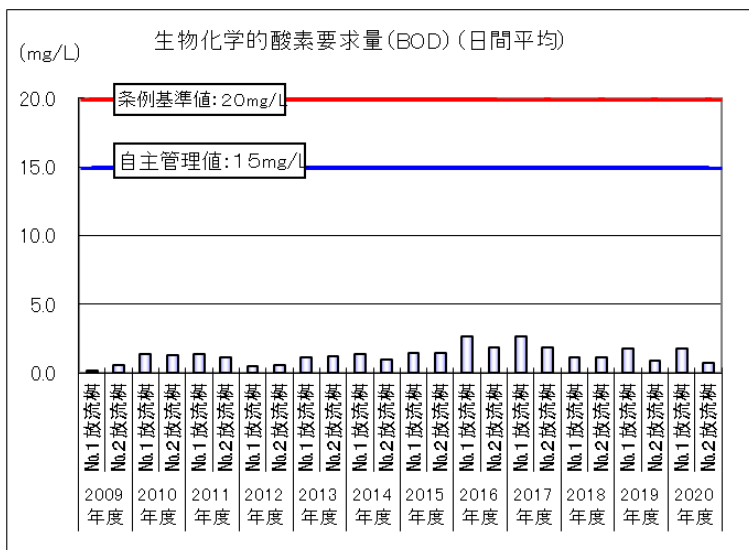
水質汚濁防止法の法規制値より厳しい山形県の条例基準値を順守すべく、更に厳しい自主基準値を設定し、排水の水質を管理しています。また、水質汚濁防止法に基づく定期測定の結果、水質関係の各測定値は法令基準値を下回る低い水準で推移しています。

当社の工程からの排水は、全て社内の処理施設にて処理を行っています。処理した排水を工場敷地外に排出する際は、最終放流桝のpHセンサーにて常時監視を行い、水質基準に合わない水を流出させないようにしています。



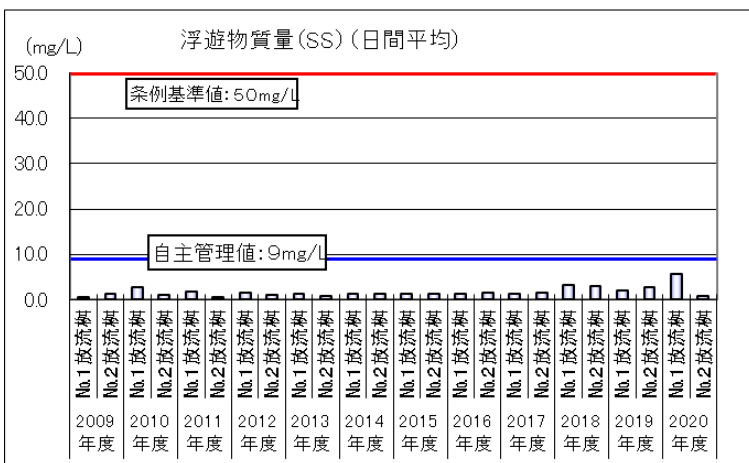
・pH: 水溶液の酸性・アルカリ性の程度をあらわす単位。(中性はpH7.0)

各排水処理施設の最終段階で更にpH調整を行い放流しています。



・BOD: 水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量のこと。河川の有機汚濁を測る代表的な指標。

流動接触槽による生物活性処理を行い、BODの低減をはかっています。また、製造のプロセス設計の段階から工程排水のBODを低減するようにしています。



・SS: 水中に浮遊している直径2mm以下の粒子状物質。懸濁物質とも言う。

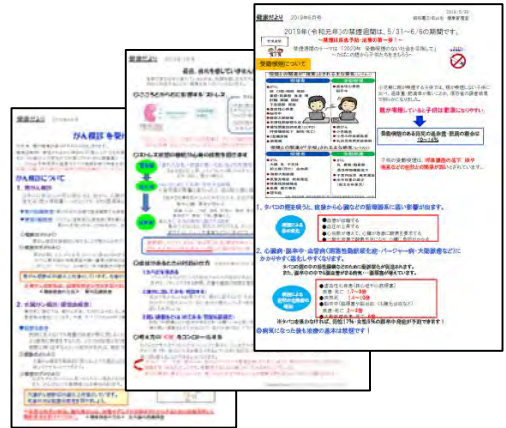
排水処理工程にて、凝集沈殿、砂ろ過等により浮遊物質の除去を行っています。

11. 心と身体の健康づくり

『健康だより』の定期発行

生活習慣病が深刻化するのは、働き盛りである40歳以降ですが、その多くは自覚症状がないまま進行します。健康でイキイキと元気に働くためには、日頃のセルフケアが重要になります。健康管理室では病気の予防や健康増進のために必要な健康情報を提供し、健康意識を高めていただくことを目的に毎月1回「健康だより」を発行しています。

今後も健康づくりに有効で健康管理に役立つ、興味深い情報提供を行っていきます。



健康教室『生活習慣病予防 歯科口腔対策』について

当社では、毎年生活習慣病予防のために健康教室を開催しております。2019年のテーマは、「口の健康と全身の健康との関連」について、歯科医院の星川医師をお招きし、専門の立場からお話をいただきました。口腔の健康状態と全身の健康状態との関連は明らかで、歯周病による咀嚼機能や口腔機能の低下はメタボや糖尿病の悪化の原因になるといわれています。今後も従業員のヘルスリテラシー（健康意識）の向上を目的に、健康増進と生活習慣病の予防改善のために関心の高いテーマを選び取り組んでまいります。(2019年12月11日)



健康づくり『私のチャレンジ90宣言書』の取り組み

当社では、心身ともに健康で働くために、継続した健康づくりの取り組みを実施しています。2020年1月より「健康づくり・健康チャレンジ90」の取り組みを90日間実施しました。

個人の健康課題に対する対策を具体的に各自が立案し「宣言書」に記載して90日間取り組みました。

「私のチャレンジ宣言書」に取り組み内容を記載し、実施した日を塗っていきますので、90日間達成すると「宣言書」の桜の木が満開になります。

今後も「自分の健康は自分で守る」という健康意識を高めて生活習慣病の予防と改善策について取り組んでいきます。

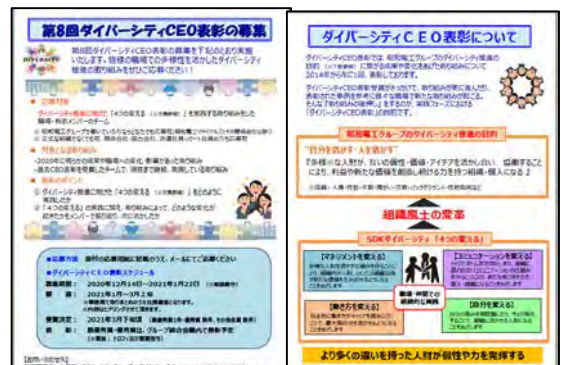


第8回ダイバーシティCEO表彰『期待賞』を受賞

昭和電工グループでは、2014年からダイバーシティ推進の目的(自分を活かす。人を活かす。)につながる成果や変化をもたらした取り組みについて表彰が行われています。

2020年(8回)、『従業員のこころとからだの健康保持・増進について～ヘルスリテラシー向上のための健康づくり構築～』をテーマとした取り組み内容を応募致しました。結果、『事業所の高齢化に伴う健康経営を課題として、経営と共有しながら様々な健康に関する施策を実施し、外部からの評価も得ることができた』点が評価され、『期待賞』を受賞することができました。

今後尚一層、経営トップと情報共有し、従業員の高齢化に伴う疾病等を未然に防止するために、健康経営を意識して取り組んでまいります。



12. 社会との関わり

献血への協力

毎年、東根市の協力依頼を受け、日本赤十字社の血液事業（献血）に協力しています。構内で移動献血車による献血を年2回実施しており、山形県内では輸血用血液製剤の需要が増加しているなか、毎年、40名程が献血に協力しています。

これからも、日頃の体調管理に気を配り、献血についての啓発等を推進し、私たちの血液を一人でも多くの方に役立てていただけるよう、継続して協力してまいります。



『果樹王国ひがしね さくらんぼマラソン大会』への協力

「第18回果樹王国ひがしね さくらんぼマラソン大会」が、山形県東根市の陸上自衛隊神町駐屯地をメイン会場として開催されました。

2019年、当社は創立10周年にあたり、大会パンフレットや応援看板に「おかげさまで10周年」のメッセージを載せてみなさんに感謝の意を伝えました。

当社は毎年、近隣企業と協同しマラソンコースの15キロ付近に当たる当社正門前で冷たいタオルを手渡しています。2019年も総勢48名のボランティアが、早朝から6,500本のタオルを準備しました。2018年と同じく気温が上昇し、ランナーにとっては厳しいマラソン環境だったため、氷水で冷やしたタオルはランナーの皆さんに大変喜んでいただきました。

第18回大会も当社をはじめ、本社、市原、小山、川崎等からも多数のランナーが参加し、初夏を思わせる天候の中、赤く色づきはじめたさくらんぼ路を駆け抜けて行きました。

(2019年6月7日)



山新放送愛の事業団への募金

昭和電工HD山形は、「公益財団法人 山新放送愛の事業団」に約30万円を寄付しました。

当社創立10周年記念イベントのひとつとして、節目となる10年を振り返り、地域社会の恩恵に感謝して還元するため、従業員に寄付を募ったものです。

青木事業所長が山形メディアタワー(山形市)を訪れ、事業団理事長に寄付金をお渡ししました。社内で集まった150,967円に加えて、会社が同額を拠出しました。

これからも事業を力強く推進し、地域社会の発展に貢献してまいります。

※山新放送愛の事業団は、明るく健康な社会づくりを目指し、民間サイドから山形県内における福祉活動を啓発するとともに、物心両面にわたる援助活動を行うことを目的に、山形新聞、山形放送を母体にして設立。(HPより)

(2019年8月29日)



『今年も出前授業に行ってきました！ ～HDメディアのテクノロジーに驚愕～』

2021年2月24～25日、昨年に引き続き県内の創学館高校 情報メディアコースの2年生(80名)を対象に出前授業を実施致しました。

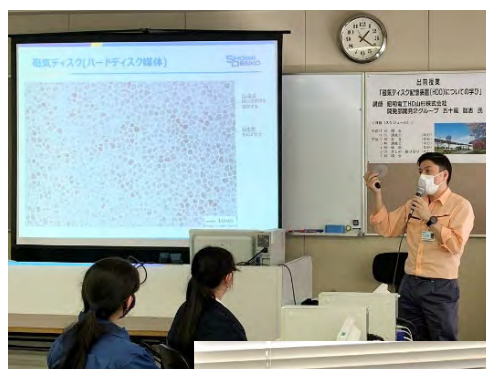
本授業は、産学連携事業の一環として実施されるもので、地元企業の当社において「ハードウェア技術」単元の補助記憶装置の実習を行い、高度な専門知識と技術の習得を目指すものです。

講義では、HDDや磁気記録の概念、HDメディアの高度な成膜技術や研磨技術などをわかりやすく丁寧に説明しました。「記憶容量の単位をどこまで知っているか」と質問すると、ヨタバイト(10²⁴バイト)まで知っている生徒もいて私達も驚かされました。

続く実技の時間では、HDメディアの技術力や精密度の高さを実感いただくためにHDDの分解を行いました。また、HDメディアの成膜技術を体感していただくために、成膜前／後それぞれのHDメディア表面にサインペンで文字やイラストをかいてもらい、書き味の違いを比較していただきました。

本出前授業を通じて、HDメディアにおける高技術、高品質、魅力を伝えるとともに、当社がHDメディアにおいて高い技術と品質を有しグローバル展開する企業であることを認識していただけだと思います。

今後も、本活動を通じて地域とよりよい関係を深めていきたいと思っています。



『アルミ缶リサイクル活動実績』

昭和電工グループアルミ缶リサイクル活動に参加しています。従業員が家庭等で出た使用済みアルミ缶を持ち寄り、社内に設置した回収BOXに入れます。

2019年及び2020年の活動実績は以下のとおりです。

	2019年	2020年
回収缶数	40,909缶	41,621缶
回収重量	609kg	653kg
収益金	38,431円	36,212円

収益金は東根市社会福祉協議会に全額寄付しました。

右の写真は、2020年8月28日に福祉協議会会長の土田東根市長より当社へ感謝状が贈呈された際のもので。



13. 従業員との関わり

『交通安全県民運動』への協力

春と秋に山形県下一斉に交通安全県民運動が展開されます。当社でも従業員向けに夕暮れ時と夜間の歩行中、自転車乗中の交通事故防止推進や、道路横断時・交差点における交通事故防止などの交通安全啓発活動として、交差点と正門で交通安全指導を行いました。

- ・春の交通安全県民運動（2019年5月11日～5月20日）
（2020年4月 6日～4月15日）
- ・秋の交通安全県民運動（2019年9月21日～9月30日）
（2020年9月21日～9月30日）



『入社式』の実施

昨年に引き続き、2021年も初々しい新入社員が2名入社致しました。入社式では、青木事業所長の祝辞、祝電披露、最後に新入社員2名の決意表明とも言える力強い『誓いの言葉』を述べていただきました。

1日にも早く会社生活に慣れ、戦力となっただくよう期待しております。

（2021年4月1日）



13. 従業員との関わり

創立10周年イベント

2019年7月26日、天童温泉「滝の湯ホテル」にて、昭和電工HD山形㈱(ShDY)の創立10周年記念祝賀会を開催いたしました。

来賓として㈱東芝様ほか、昭和電工㈱市川会長(ShDY初代社長)をはじめ昭和電工㈱デバイスソリューション事業部(海外含む)からもたくさんの方々にご参加いただきました。

石川社長の挨拶、市川会長の祝辞、樽4つ総勢16名での迫力ある鏡開きの後、『ShDY10年の輝跡』と題するスライドショーを上映しました。当時の楽しいことや辛いことなどを思い出し涙ぐむ参加者も見られました。

続いて、地元山形大学のチアリーダーのパフォーマンス、クイズ大会『ShDY愛No1決定戦』などが行われ、会場は大いに盛り上がりました。

締めには山形労組の佐藤委員長よりご挨拶、そして、参加者全員による記念撮影で10周年記念祝賀会は終了しました。

当社は、次の20周年に向けて良い出発ができました。

これからも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



『大運動会と工場見学会』を開催

2019年10月12日、創立10周年大運動会・工場見学会を開催し、社員・協力企業及びそのご家族、総勢200名が参加しました。

運動会は雨天により屋内で行われたため、競技者と観客の距離が近いので、観戦しやすく声援も良く届きました。家族競技をはじめ見どころもたくさんあり、会場は大いに盛り上がりました。

昼食は、山形名物の芋煮や松茸おこわ、和牛串焼きなど前回よりも豪華なメニューが振る舞われ、参加者のみなさんには喜んでいただけたようです。

工場見学会には17家族・47名が参加しました。屋内のみの見学となりましたが、子供たちにはクリーンルーム入室時のエアシャワーの体験や、お父さん・お母さんの机の前での写真撮影などを楽しんでいただきました。

今回、雨天のため運動会を初めて室内で実施しましたが、無事成功裏に終了することができました。



14. 新型コロナウイルス感染予防対策

マスク着用義務化、手指消毒の励行

2020年2月から事業場内でのマスク着用を義務化し、社員はもとより、協力企業従業員や来場者にもマスクを配布して着用してもらうことを徹底しています。

また、場内の各所に手指消毒剤を設置し、随時消毒できるようにしています。

配布用マスクは、世界的なマスク不足の時期も含め切らず事無く配布を継続することができました。

これらの対策は、現在も継続しています。

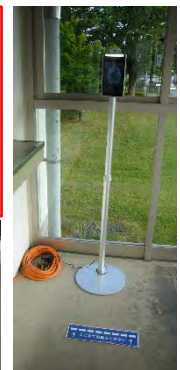


検温管理の徹底

事業場内でのマスク着用の義務化と合わせて、社員はもとより、協力企業従業員や来場者の検温管理も実施しています。

社員は、検温結果を自社製のWebシステムに登録し、所属長や管理部門で確認できるようにして、場内での蔓延防止に活用しています。

外部からの来場者も、受付の際にサーモカメラを用いて体温を計測し、発熱している方には入場をお断りする等の対策を実施しています。



3密回避策の徹底

万が一、感染者が発生した場合にクラスターを回避するために事業場内での『3密回避策』を徹底しています。

①テレワークの導入

エンジニアやスタッフなど、在宅勤務(テレワーク)が可能な職種の従業員に対しては、情報セキュリティ対策を強化したうえで、自宅などからオンラインで業務が行える体制を整えています。

②社員食堂の分散使用と座席レイアウトの変更

昼食時の社員食堂の混雑回避のため、お昼休みの時差休憩を見直しました。打合せ時間に制約ができるなどの多少の不便はありますが、混雑することなく食堂が利用できることで3密回避につながっています。

また、従来対面で使用できた座席をすべて窓に向けて横並びに配置し、対面での喫食ができないようにしました。

③事務所、会議室での3密回避

2020年4月の全国的な緊急事態宣言時には、事務所での密集を回避することを目的に、事務所以外の場所に執務スペースを用意して、事務所スタッフの約半数がその場所で執務する疑似在宅勤務を導入していました。

疑似在宅勤務中は、打合せや会議にもオンライン会議で参加することで、密集・密接を回避することができました。

疑似在宅勤務は2020年6月1日以降、解除しています。





昭和電工HD山形株式会社

2021年 CSRサイトレポート
(2020年・21年合併号)

発行年月:2021年8月

本レポートに関するお問い合わせ先

昭和電工HD山形株式会社 総務部 CSRグループ
〒999-3701 山形県東根市東根甲5400番地2
Tel:0237-43-6111 Fax:0237-43-6039